



社会医療法人
公徳会

広

報

誌

こころとく

2021.4

Vol.56

特集

令和3年度の公徳会の方針

シリーズ

コロナを考える

—第3回—コロナ禍と自殺予防

心理士

—第2回—社会心理学から読み解くデマ、
フェイクニュース拡散のカラクリ



理 念

- ・愛のある医療
- ・良識に基づいた医療
- ・公正、公平な医療

基本方針

- ・良質な医療の提供につとめます
- ・患者さま、利用者さま中心の医療を行います
- ・地域に立脚した医療を行います
- ・安全で安心と満足の得られる医療を提供します
- ・保健、医療、福祉の幅広い視点に立って健康を考えます

contents

■特集

令和3年度公徳会の方針・計画について

■お知らせ

令和3年度新入職員

米沢こころの病院・若宮病院 新院長挨拶

■シリーズ

コロナを考える / 心理士

■部署紹介

ヒルサイド羽黒

■トピックス

野球部活動報告

女性活躍推進法に基づく当法人の分析結果

■外来受付予定表

■診療情報

表紙撮影／松田顕治

令和3年度公徳会の方針・計画について

令和3年度を迎え公徳会は新年度における事業計画を策定いたしました。今年度に公徳会が取り組む事業などについて今回の特集で地域のみなさまにご紹介してまいります。

昨年から続く新型コロナウイルスの感染拡大は、ワクチン接種の開始が始まり今年度中に新たな局面を迎えるものと期待しておりますが、足元ではまだまだ収束を迎える状況には無いため、新型コロナウイルス感染対策を第一とし、今年度の各事業の計画に取り組んでまいります。



新たな事業の計画

今年度は若宮病院の第3病棟を閉鎖し、そこで新たに訪問看護事業を南陽訪問看護ステーション

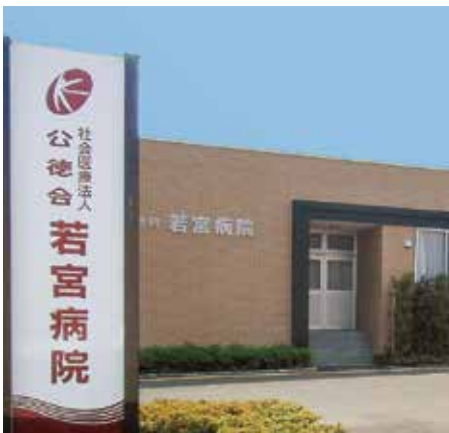
シヨンのサテライト事業として開始するとともに、就労支援事業を立ち上げ南陽市の就労支援事業所のノウハワを活かしたパン作りや内職などの仕事の提供を若宮就労支援センターとして行っており、山形市内で提供できるサービスの多様化を通して若宮病院の機能強化を図ります。

若宮病院で始める両事業については次ページで詳しくご紹介いたします。

米沢こころの病院の増床

若宮病院の第3病棟の閉鎖に合わせて米沢こころの病院の第2病棟を54床から60床に4床の増床を行いました。法人内病院の病床の再編を通して米沢こころの病院の入院者の受入体制を強化し、米沢市内での精神科医療の充実に寄与していくことを目指します。

これらの事業は今後本格化するであろう県内での人口減少を見据え、既存の病院・施設の役割を見直すことで、より必要性が高い分野や各地域社会の要請に合う事業へシフトしていくことで、各地域においてより良く公徳会の持つノウハワや機能を提供できる体制を整えていくことを目的としています。



わが国において急速に進行している少子高齢化を踏まえた社会構造の変革を背景に、住み慣れた地域で自分らしく人生の最期まで過ごすことができるように医療、介護、住まい、予防、生活支援サービスが身近な地域で包括的に確保される体制を構築するため「地域包括ケアシステム」の整備が進められています。私たち公徳会においても地域包括ケアシステムにおける在宅医療が担う機能や役割、介護との連携、多職種連携や今後の精神医療や介護提供体制がどうあるべきかを考え、当法人の理念の一つである、「地域に立脚した医療」を目指し、以前から地域医療に取り組んでまいりました。

令和3年度は若宮病院第3病棟を廃止し、より地域に密着したサービスを提供する為、既存病棟建物を再利用し「南陽訪問看護ステーションサテライト若宮（仮称）」と「若宮就労支援センター（仮称）」の新規事業を計画しております。

南陽訪問看護ステーション サテライト若宮（仮称）

南陽市に拠点を置く、「南陽訪問看護ステーション」を拡大し、若宮病院建物内にサテライト事業所の設置を計画しております。

訪問看護は、介護保険か医療保険が適用される2種類のサービス

があり、介護・医療保険適用は共に、病院・診療所の医師の訪問看護指示により、頻繁に受診することとが困難な方のご自宅、または施設へ看護師等（看護師・保健師・理学療法士・作業療法士等）が伺いし、看護・介護サービスの提供を致します（介護保険適用の場合）、利用者様のご担当のケアマネージャーがケアプランを作成します）。

全国的に訪問看護事業所数は増えてきてはいるものの、山形県内の事業所総数、高齢者人口千人あたりの事業所数は他県に比べて低い数となっております。（厚生労働省「介護給付費等実態統計」より）

公徳会では、これまで若宮病院で培われた精神医療の経験を精神科訪問看護の分野に視野を拡充し、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」構築の一助となるよう環境の整備を図ります。



若宮病院 就労支援センター（仮称）

若宮病院就労支援センターでは

就労継続支援B型事業所の指定取得を予定しております。

就労継続支援B型事業所とは一般企業への就労が難しい方、離職された方、仕事をすることで社会的自立を目指したい方へ、働く場を提供するとともに、知識及び能力向上のために必要な訓練（作業）や支援を受けることができる事業所です。短時間からの利用も可能で、利用される方それぞれ個別に活動内容を検討し支援を行います。

対象は精神に障がいを持っている方で、就労意欲はあるものの不安のある方、就労するために必要な体力および職業能力の向上を希望する方です。

当法人では南陽市に拠点を置く、「南陽就労支援センター」、米沢市に拠点を置く「米沢就労支援センター」の2拠点を現在運営しており、作業内容は、ぶどう園作業（冬期間は除雪）、パンの製造・販売、洗濯作業、内職作業を行っています。

若宮就労支援センター（仮称）についても、2つの就労支援センターで培ったノウハウを生かし、パンの製造・販売及び内職作業を計画しております。

入院から社会生活での自立を目指していく中で、切れ目のない充実した支援体制の構築を目指して参ります。



令和3年度 新入職員



佐藤理事長より新入職員へ

重苦しい気持ちを持ち越して新年度を迎える事になりました。1年以上も続くと窮屈な生活に耐えるのも限界に達しそうです。こんな時は新年度に對しての展望も抱きにくいのですが、このまま前に進まず躊躇することは逆に不安を増強させる事になるのではないかと思います。そこで、今年度の方針について述べてみたいと思います。

まず、コロナ後の医療、介護はどのようなかを考える必要があります。おそらく医療、介護に對しての関わりが少なくなることが予想され心配です。

まずは治療、介護が必要な人には積極的に働きかけて中断がないようにすることが重要です。放っておけば必ず状態が悪化します。各部署で電話や訪問しチェックしてください。

今年度はかねてから考えていた病棟の再編成を行います。今後の人口動態、医療構造の変化に伴う精神医療の在り方に伴う再編です。それによってスタッフの異動があります。幅広い経験をする事は個人にとっての財産になります。それぞれの部署で頑張ってください。

新しい取り組みとして、若宮病院に訪問看護ステーションを設置し精神医療と介護との連携を見据えて地域での看護支援を行います。

それとまだ若宮病院にはない働く場所としての就労支援型事業所を設置します。就労の入口としての役割を目指します。両事業とも南陽、米沢でも実施していますので協力して立ち上げてください。

今後の方向として増え続ける認知症に對して地域で支える系統的な施策が必要でないかと思ひます。法人の資源を活用して出来ないか考えてみたいと思います。次に不足している障がい者の就労の場の問題です。他でもやっている農福連携という仕組みで創設できないか考えてみます。

次はこれまでお願いしていた各部署間の連携ですが、十分とは言えません。もう一度責任者が集まって情報の交換をやりたいと思います。そして抜けている部分がないか検討し、精神科におけるしっかりとった地域包括ケアシステムの構築を考えたいと思ひます。もし出来れば情報処理をIT化できないか考えてみます。

最後ですが、法人では様々な形で地域貢献はしていますが、今後も継続してやっていきたいと思ひます。個人としてもボランティア精神をもつて広い意味で貢献する事を忘れないようにしてほしい。この事が公徳会の理念「愛のある医療・良識に基づいた医療・公正、公平な医療」の原点であることを認識してください。



新入職員代表の挨拶

倉持 佑佳

本日は、私たち新入職員のために、コロナ禍の大変な最中、辞令交付式を開いていただき、新入職員一同を代表して心より御礼申し上げます。

私は、当初、子どもの貧困問題について学びたいと思ひ、大学に入りました。しかし、精神保健福祉に對しての講義を聞いた際、精神疾患のある方々はまだまだ選択の幅が狭い現状があること、精神疾患の若者たちの資源が少ないことを知りました。それから、この分野をもっと深く学びたいと思ひ、今日まで専門的に勉強することにしました。実習では、医療と福祉が一体となり、密接に連携することの大切さや相手の想いに共感するためには、「理解する」のではなく、「理解しようとする」ことが大切なのだと思ひました。これらの学びを通して、生涯を抱える方々に對し、精神保健福祉士として、貢献したいと思ひようになりました。そのような思ひの中、参加し

たオンライン就職説明会の丁寧な対応をはじめとし、社会医療法人公徳会の特色である保険・医療・福祉の三位一体となった幅広い体制づくりと児童精神分野に力を入れている事に魅力を感じ、長年過ごしてきた地を離れ、こちらで働きたいと強く思いました。

そして本日より、ここにいる同期と一緒にその公徳会の一員として迎えて頂けていることに心から感謝し、この上なく光榮に思っております。

しかしながら私たちは社会人としてまだまだ未熟者です。至らない部分が多くあると思ひますが、精一杯の努力を惜しむことなく、公徳会に貢献できるよう努めていきたいと思ひますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い致します。

社会人として生きていく上で、相手に對する患者の気持ち、ひたむきな姿勢を持ち続ける覚悟をここに誓い、誠に簡単ではございますが、新入職員代表の挨拶とさせていただきます。



米沢こころの病院 新院長



長谷川 朝穂

このたび米沢こころの病院に院長として就任した長谷川朝穂（あさほ）と申します。平成28年には短期間ではありますが、米沢駅前クリニックに勤務しておりました。私の出身は名古屋市であります。従兄弟が米沢の大学に学んでいたこともあり、こちらとは何かの縁があるようです。長らく精神科救急医療に携わってききましたが、阪神淡路大震災、東日本大震災に際しては災害支援医療チームのメンバーとして活動した経験もあります。それらの経験から、地域に根ざした医療がいかに重要であるかを実感してきました。米沢に位置する病院に勤務するものとしては、他の医療機関をはじめとする地域の組織および住民の皆様とのつながりを大切に、この地に貢献できれば幸いに思います。どうかよろしく願います。なお、精神科救急とは一体何？という方は、野村進さんのルポルタージュ「救急精神病棟」という本をご参照下さい。私もちょっぴり登場しますよ。



若宮病院 新院長



田中 武

この度、若宮病院の院長に就任することになりました。今は、重責を果たせるかどうかの不安で一杯です。病院は今年度から142床から113床へと減床になります。COVID-19の不安が軽減しない中での人や診療体制の「変化」は私達職員だけでなく、患者様にとっても大きなストレスとなります。

若宮病院は開院当初からアルコール依存症を主とした依存症の治療に積極的に取り組んで参りました。ご存じのように「依存症」は生物・心理・社会的な病です。治療のためには、病気に關しての身体的な知識だけでなく、心の仕組みを知り精神療法的な関わりを心がけ、さらに家族への支援も欠かせません。多職種連携や他の機関との協力が当然のこととして浸透しています。このような下地があるので、統合失調症や気分障害、認知症さらには小児の精神疾患などに対しても互いの持ち味を発揮しながら柔軟に対応できるような気がします。

自分はまだまだ未熟ですが、病院の力を落とさぬように互いに尊重し合って働けるように、患者様やご家族のお役に立てるように努力したいと思います。皆様のご指導・ご協力を、本当にお願ひ致します。



コロナを考える

第3回

コロナ禍と自殺予防

米沢こころの病院
院長 長谷川 朝穂

自殺のリスクとなりうる要素が増大していることから、自殺予防の重要性が増すことは明らかと思われます。

今年2月には新型コロナウイルスのワクチン接種が開始され、今後感染が終息に向かうことが期待されます。しかし、これまで減少傾向にあったわが国の自殺件数はコロナ禍を契機に増加傾向にあり、感染による死者を上回る事態となる恐れもあるとの報道もあります。

自殺の増加がコロナ禍によるものか、他の要因（有名人の自殺による影響等）も関与しているのか、現在のところはつきりしてはいません。しかし、コロナ禍を契機に、失業や収入減少などによる経済的困窮、自粛生活が続くことによる閉塞感、それらに関連した家庭内問題の顕在化、他者との交流減少に伴う孤独・孤立した生活など、

では、どのような方法で自殺を予防できるのでしょうか？自殺をするほど苦しみ、思い詰めた人の多くに共通した心理状態^{※1}として「疎外感▼所属感の減弱、自分の居場所が無い感じ」と「お荷物感▼自分が誰かの負担になっている感じ」が挙げられるとされています。そのような感覚は、本人にとってとても辛いものでしょう。しかし苦しんでいる人は往々にして心理的な視野狭窄に陥っており、第三者の視点からみれば解決の可能性はあるのに、それに気づかず「死ぬしかない」となってしまうのです。そんな心理状態にある人は、誰かに相談することもできなくなっているものです。なぜなら「相談しても相手に迷惑をかけるだけ」で、「解決できない」と思い込み、そもそも相談するための気力も失っていることもあるでしょう。苦しいのに自ら助けを求められない人の自殺を防ぐため、できることはあるでしょうか？

ための行動」として以下のような記載があります。

気つき 家族や仲間の変化に気づき、声をかける。

傾聴 本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける。

つなぎ 早めに専門家（経済的な問題なら公的相談機関、心や身体の問題なら医療機関など）に相談するように促す。

見守り 温かく寄り添いながら、じつくりと見守る。

ある人が「コロナ禍で何代も続いた老舗が倒産し、その経営者が自殺をはかった場合、その気持ちは理解できる。一体どう止められるのか」と発言されました。自殺をはかった方には命より店が大切だととしても、その家族や友人は「店が潰れてもその人が生きていくことが大切」であることでしょ

※1 日本自殺予防学会 「自殺しないでください」
張賢徳（日本自殺予防学会理事長）からのメッセージ



※2 厚生労働省
「あなたにも出来る自殺予防のための行動」



※3 公徳会 24 時間対応救急窓口



※2 「ヒーローなんていない」
太刀川弘和（筑波大学）からのメッセージ



孤独な人、孤立している人への心配りが必要です。働く場を失った母子（父子）家庭の親御さん、デイスーパーなどへ通えずこもりがちが高齢の方、学校に通えずバイトもない若者達、このような人々を気遣い、声を掛けることで相談の機会を提供できるようになれば、コロナ禍に関わらず自殺者の増加を防ぎ、ひいては日本がこれまでよりも幸せな国になれると思います。

社会心理学から読み解くデマ、フェイクニュース拡散のカラクリ

米沢こころの病院・検査科
公認心理師 福地 直哉



人々の不安に
つけ込むデマ情報、
フェイクニュース

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の脅威が続く中、今やこの話題を見聞きしない日はないという位、当たり前の光景になりつつあります。連日煽動的な報道が繰り返され、否応なく入ってくる情報にウンザリという方も少なくないでしょう。

また、巷ではこれに関連した真偽不明の情報が溢れ、トイレット

ペーパーの買い占めで人々が翻弄されたのは記憶に新しいところで。この騒動の発端はSNS発信による誤った情報（デマ）で、マスコミもこぞ取り上げたことでさらに輪をかけて拡散され、連鎖的に行き過ぎた消費行動へと駆り立てたのでした。

これに限らず激甚災害やテロ、大事故のような世情不安につながる事象の後もデマや虚偽の報道（フェイクニュース）がどこからともなく発生し、特に人々の命や暮らしにかかわる情報ほど拡散され支持を得やすいという性質があります。

ウソも1000回言えば
ホントになる？

例えば「コロナに〇〇が効く」という情報を何度も見聞きしたと仮定します。その時は特に気にも留めなかったことでも、時間の経過とともに「〇〇が効く」という情報だけが残る、その情報源が曖昧になる過程を社会心理学では「スリーパー効果」と呼んでいます。米国の心理学者ホブランドにより提唱され、時間とともに情報

源の信ぴょう性が「眠って」しまふ点にちなむようです。

事実、デマ情報の多くは「誰かに聞いたが、誰に聞いたのかは忘れた」というものが大半で、たとえウソでも情報だけが一人歩きして、あたかもホントのように姿かたちを変えて忍び寄ってくるのです。

適切な判断を歪ませる
確認バイアス

仮に十分信頼できうる情報源だとしても、「絶対正しい」と決め打ちするのは禁物です。なぜなら人は無意識に自分の都合のいい情報ばかりに目を向け、異なる意見を軽視しがちな傾向にあるからです。この認知傾向の偏りを「確認バイアス」といい、しばしば意思決定での落とし穴とされています。



なお、総務省が昨年6月



に取りまとめた調査では、回答者の実に7割近くがCOVID-19に関する何らかのフェイクニュースやデマに接触していた傾向が明らかとなりました。また、このうち3割程度が実際にそれらを信じてしまったとの結果もあり、状況判断における確認バイアスの影響は無視できないところです。情報に触れる際は、あえて自分の支持する考えとは真反対の立場にも耳を傾けることで、目先の情報に踊らされることがなく、より適切な判断へと至る可能性が高まるのではないかと考えます。

部署 紹介

ヒルサイド羽黒



◆ヒルサイド羽黒は今年で創立18年目を迎えます。当施設は自立の方から要介護の方までご入居いただける介護付有料老人ホームです。

入居者様の居室は全室個室で全部で40室あります。居室のタイプは3種類あり、タイプごとにお一人様やご夫婦でお住まいいただけるお部屋をご準備しております。医療や介護のサポートもあり、安心して過ごせます。介護度の高い方も、ご利用いただける施設です。入居者様が快適に過ごされるよう、お一人おひとりに合ったケアを提供することを基本とし大切にしていきます。

◆毎日多目的スペースにて健康体操を行っております。リズムに合



わせみなさん元氣よく参加されております。その他、ドミールリハビリ専門職より個別にリハビリメニューを組んでもらい、その人に合ったリハビリ



い唱歌から歌謡曲まで幅広く入居者様も楽しみにされております。現在、コロナ感染症の影響もあり行っておりませんが、市内のスーパーに出掛ける買い物ツアーやレクレーションなどイベントも随時開催しております。

◆出来るだけ入居者様の嗜好や希望を大切にしながら、敷地内で採れる「ふきのとう、筍、栗、銀杏」などのほか、旬の食材を利用した料理を提供させていただいております。季節の特別食やイベント食のほか、選択メニューなど定期的に行っております。みなさまから大変喜ばれております。医師の指示による治療食にも別途料金にはなりますが対応しております。

◆ヒルサイドの自慢の一つが「赤湯温泉」ならではの天然温泉のお風呂です。入居者様からも「温ま

りや運動を行っております。また音楽療法士による例会も月2回開催しております。歌う曲は懐かしい

るよ」「温泉に入っているから元氣でいられる」等とお声をいただいております。また3000坪の庭園には遊歩道を整えておりますので四季折々の季節感を満喫いただけると思います。

◆入居相談等ございましたらお気軽にお問合せ下さい。

見学・体験入居も随時受け付けておりますので是非足を運んでいただき施設の雰囲気などご確認いただければと思います。職員一同お待ちしております。



公德会佐藤病院 野球部 活動報告

新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度シーズンは、高校野球をはじめ、多くの大会が中止となり、当野球部の活動も自粛せざる負えない時期もございました。このような状況にも関わらず、公德会職員の皆様、地域の皆様の支えもあり、8年連続で山形県予選を突破し、唯一開催された天皇賜杯へ出場することができました。リスクがある中、送り出して頂いたすべての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

令和3年度シーズンは、新体制となり、スタッフ4名、選手16名で活動して参ります。新監督のもと、スタッフ・選手一丸となり全国の頂点を目指し頑張る参りますので応援宜しくお願い致します。

佐藤病院野球部 監督 橋本和幸



コロナ禍において医療・福祉の現場だけではなく、社会全体がとても厳しい状況に置かれており、大会開催も危ぶまれる状況ではありますが、事態の収束を願いつつ2021年度のシーズンに向け2月から練習をスタートしました。ここ最近の成績は、全国大会で1・2回戦敗退が続く「惜しい試合内容」ではあるものの勝利に結びつかない厳しい結果となっています。今年はその壁を破るべく、新しい取り組みにチャレンジしながら、チーム全体の意識とスキル向上を図り、様々な面からの準備を整えて試合に臨みます。そして、この状況下で野球をやらせて頂けることに感謝し、支えてくださっている職場の皆さんや地域の方々、そして家族に勝利という良い結果が報告できるよう全力で戦い、飛躍の年となるよう頑張ります。今年も野球部へのご理解とご支援、そしてご声援の程よろしくお願いいたします。



佐藤病院野球部 主将 樋口真大



野球ができる環境を作ってくださる職場、支えてくれる家族に感謝しながら今私たちにできることは全国で1つでも多く勝ち進み公德会、山形県を盛り上げることだと思います。

ワンチームで頑張る参りますので応援宜しくお願い致します。

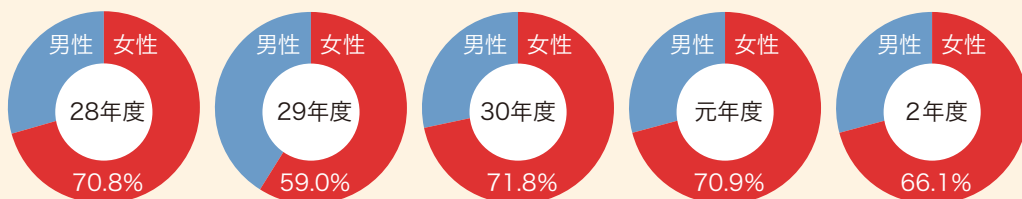
令和3年度山形県大会日程

- 山形県クラス別選手権大会(新庄市) **5月29日**
- 国民体育大会山形県予選会(酒田市) **7月3～4日**
- 天皇賜杯山形県予選会(新庄市) **7月31日～1日**
- 東北総合体育大会(山形市) **8月21～22日**
- 国民体育大会(三重県) **9月26～29日**
- 東北会長旗争奪軟式野球大会(秋田県) **10月2～3日**
- 天皇賜杯全日本軟式野球大会(東京都) **10月15～20日**

分析の結果、引き続き当法人は「女性の活躍が比較的進んでいる企業」となりましたので、その一部をご紹介します。

令和2年10月1日現在(元年度は上半期まで) 職員数999名

①採用した労働者に占める女性労働者の割合(中途採用含む)



②男女の平均勤続年数の差異

(有期契約者:対象5年以上[対象者 増加])(年、%)

	28年度			29年度			30年度			令和元年度		
	正職員	嘱託	パート	正職員	嘱託	パート	正職員	嘱託	パート	正職員	嘱託	パート
女性の平均勤続年数(ア)	10.7	17.5	10.6	10.4	14.2	11.5	10.3	21.4	12.4	10.5	24.8	13.0
男性の平均勤続年数(イ)	11.2	19.4	9.3	10.7	11.9	8.9	10.7	18.1	9.5	10.5	21.6	10.4
男女の差異(ア)／(イ)	95.5	90.2	114.0	97.2	119.3	129.2	96.3	118.2	130.4	100.0	114.8	125.0
判定(70%以上)	○	(○)	(○)	○	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)

③参考資料

新卒者離職率(人、%)

2年度は上半期まで

*理由:再入学、結婚、帰省(親の世話)、進路変更

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	7年計
(新卒)	(12)	(13)	(16)	(22)	(20)	(13)	(16)	(112)
女性	2(6)	1(9)	1(13)	0(14)	1(13)	0(7)	0(11)	5(73)
男性	0(6)	0(4)	0(3)	0(8)	0(7)	1(6)	0(5)	1(39)
合計	2(12)	1(13)	1(16)	0(22)	1(20)	1(13)	0(16)	6(112)
率	16.7	7.7	6.3	0.0	5.0	7.7	0.0	5.4

外来受付時間・担当医師予定（4／1～）

【佐藤病院】

	月	火	水	木	金	土	日
午前8:30～11:30	佐藤忠宏 沼田由紀夫 直長康子	澤村一司 渡部 亮	武吉健児 直長康子	沼田由紀夫 文 鍾玉	澤村一司 渡部 亮		
午後1:30～4:30	武吉健児	岩本康夫	薛 陸景	岩本康夫	薛 陸景		
専門外来制	午前8:30～11:30	沼田由紀夫（アルコール）	澤村一司（もの忘れ）		澤村一司（ストレス） 渡部 亮（発達障害）		
	午後2:00～4:00	武吉健児（ひきこもり）		岩本康夫（依存症）	齋藤卓弥（隔週）（児童思春期） 須山 聡（隔週）（児童思春期） 薛 陸景（食べ過ぎ・肥満）		

【若宮病院】

	月	火	水	木	金	土	日
午前8:30～11:30	阿部詔子 奥山有里子	阿部 淳	日向正光 石田留生	田中 武 石井玄樹	日向正光 奥山有里子	田中 武 森口（第1週） 当番医（第2・3週）	
午後1:30～4:30	日向正光 石井玄樹	永田真一 阿部 淳（第1・3・5週） 阿部文恵	奥山有里子 阿部詔子				
専門外来制	午前8:30～11:30	永田真一（児童思春期）	田中 武（依存症）	成重竜一郎（児童思春期）			
	午後1:30～4:30	日向正光（うつ） 成重竜一郎（児童思春期）	成重竜一郎（児童思春期）	石井玄樹（児童思春期） 2:30～4:30 石田留生（児童思春期）	阿部詔子（もの忘れ） 永田真一（児童思春期）		

【米沢こころの病院】

	月	火	水	木	金	土	日
午前8:30～11:30	竹内幸宏 遠藤雅俊 垂水良介（隔週）	長谷川朝穂 中尾友宣	長谷川朝穂 遠藤雅俊	富田 裕 遠藤雅俊 御共正明	竹内幸宏 御共正明 荒井亜佐美		
午後1:30～4:30	長谷川朝穂 富田 裕 垂水良介（隔週）	竹内幸宏 富田 裕	中尾友宣	御共正明 荒井亜佐美	中尾友宣		
専門外来制	午前8:30～11:30	遠藤雅俊 （不安症・パニック障害）	中尾友宣（もの忘れ）	長谷川朝穂（うつ）	御共正明（ストレス）		
	午後1:30～4:30	富田 裕（うつ）	竹内幸宏（ストレス）	成重竜一郎（児童思春期）	相良雄一郎（睡眠）月1回		

【米沢駅前クリニック】

	月	火	水	木	金	土	日
午前8:30～11:30	薛 陸景	直長康子	中尾友宣 渡部 亮	武吉健児	沼田由紀夫	長谷川朝穂 御共正明（第1・3週） 当番医（第2・4週）	
午後1:30～4:30	岩本康夫	澤村一司	岩本康夫		富田 裕		
専門外来 予約制 午前9:00～11:30						須山 聡（第2・4週） （児童思春期）	

【トータルヘルスクリニック】

	月	火	水	木	金	土	日
午前8:30～11:30	川合厚子（内科）	川合厚子（専門外来）	川合厚子（内科）		川合厚子（内科）		
内科 予約制 午後2:30～4:00		川合厚子（専門外来）					

※各施設担当医師については変更になる場合もありますのでご確認ください。
※診療及び、各種お手続き等に関するご相談・お問い合わせは以下の各病院、医療福祉相談室で受け付けいたします。
■佐藤病院 ▶ TEL.0238-40-3170(代) ■若宮病院 ▶ TEL.023-643-8222(代) ■米沢こころの病院 ▶ TEL.0238-27-0506(代)

診療情報（令和2年度）

【佐藤病院】

		1月	2月	3月	平均
外来件数（一般外来）	1日平均	67.7	69.9	66.1	67.9
（うち、時間外外来受診件数）	月件数	12	12	6	10.0
入院者数【総ベッド数156床】	1日平均	137.4	134.9	138.1	136.8
入院件数	月件数	27	28	35	30.0
（うち、措置・応急入院件数）	月件数	2	3	1	2.0
退院件数	月件数	34	29	36	33.0
平均在院日数		106.1	108.8	111.0	108.6
（うち、救急病棟平均在院日数）		79.1	82.1	81.4	80.9

【米沢こころの病院】

		1月	2月	3月	平均
外来件数（一般外来）	1日平均	66.8	69.0	68.5	68.1
（うち、時間外外来受診件数）	月件数	8	10	7	8.3
入院者数【総ベッド数114床】	1日平均	96.4	96.5	101.7	98.2
入院件数	月件数	24	24	32	26.7
（うち、措置・応急入院件数）	月件数	1	1	1	1
退院件数	月件数	27	21	20	22.7
平均在院日数		90.2	91.4	99.3	93.6
（うち、救急病棟平均在院日数）		62.1	65.1	66.4	64.5

【若宮病院】

		1月	2月	3月	平均
外来件数（一般外来）	1日平均	83.0	84.3	90.1	85.8
（うち、時間外外来受診件数）	月件数	14	11	17	14.0
入院者数【総ベッド数153床】	1日平均	121.3	128.4	119.6	123.1
入院件数	月件数	34	19	30	27.7
（うち、措置・応急入院件数）	月件数	4	2	2	2.7
退院件数	月件数	22	25	41	29.3
平均在院日数		134.7	138.5	129.4	134.2
（うち、救急病棟平均在院日数）		48.5	51.6	66.5	55.5

記載内容につきまして、ご意見・ご質問・ご感想等ございましたら、下記までご連絡ください。

公徳会 広報誌 こうとく No.56
令和3年4月16日発行 発行 社会医療法人 公徳会
編集 公徳会広報委員会
〒999-2221 山形県南陽市柊塚948-1
TEL.0238-40-3170 / FAX.0238-43-2076
✉ sato-hp@koutoku.or.jp 🌐 http://www.koutoku.or.jp